あなたは何を大切にして生きるのですか

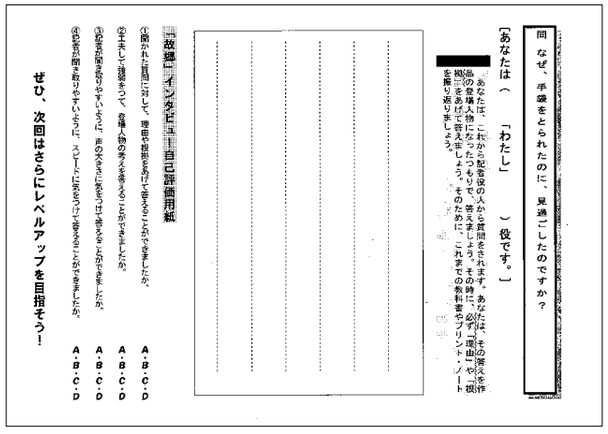
――「故郷」（三年）――

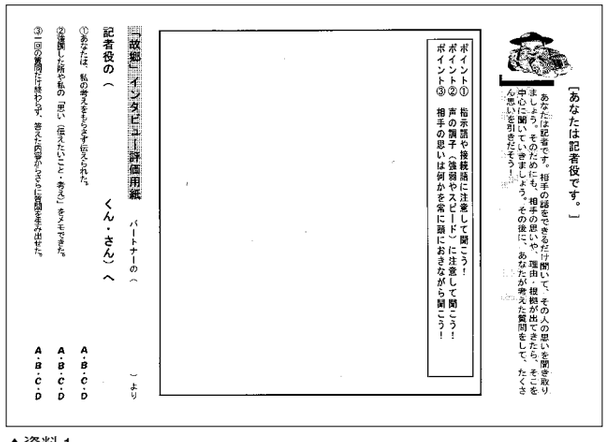
新しい指導を考える会

1 はじめに

生徒がそれぞれ自分らしく幸せに生きていくには、多くの人とのかかわりが必要である。読書は「作者との対話」でもあるので、生徒たちには、より多くの作者とかかわり、多くの知恵を得てもらいたい。教科書に長年にわたって掲載されている名作と呼ばれる作品は、生徒にとって多くの知恵や生き方を教えてくれる。生徒が作品とかかわる中で、自分の生活をどのように考え、振り返ることができたかを大切にしたい。また、生徒に自分のものの見方や考え方を広げさせるチャンスにもしたい。

2 実践報告（全8時間）


問　なぜ、手紙をとられたのに、見過ごしたのですか？
【あなたは（　「わたし」　）役です。】
あなたは、二枚から配役役の人から質問をされます。あなたは、その答えを作品の登場人物になったつもりで、答えましょう。その時に、必ず「理由」や「根拠」を挙げましょう。そのために、これまでの教科書やプリント・ノートを振り返りましょう。
A・B・C・D
A・B・C・D
A・B・C・D
「故郷」インタビュー　自己評価用紙
①聞かれた質問に対して、理由や根拠を挙げて答えることができましたか。
②工夫して「強弱をつけて、登場人物の考えを答えることができましたか。
③配役が聞きやすいように、声のスピードに注意して答えることができましたか。
④配役が聞き取りやすいように、スピードに注意して答えることができましたか。
ぜひ、次回はさらにレベルアップを目指そう！
A・B・C・D
A・B・C・D
A・B・C・D

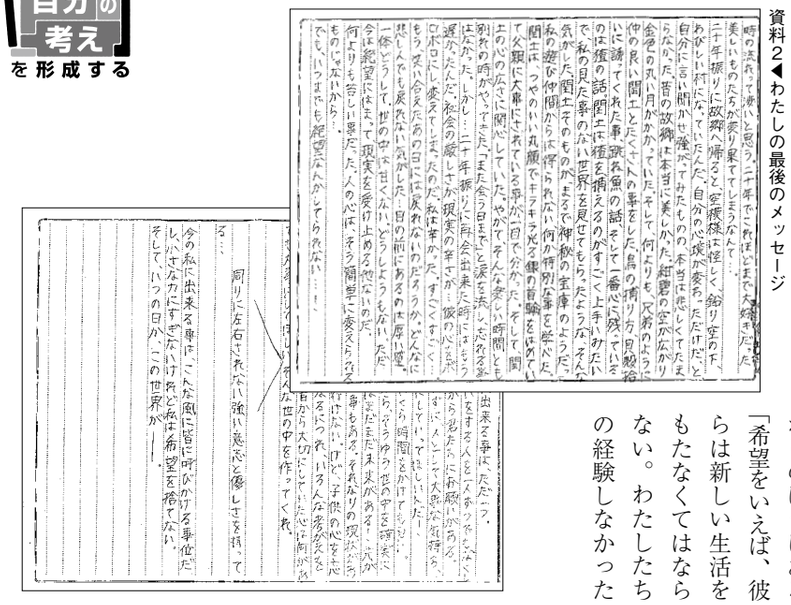

「故郷」インタビュー　評価用紙　（　）より
記者役の（　　）へ　パートナーの（　　）へ
ポイント①　指示語や接続語に注意して聞こう！
ポイント②　声の強弱（強弱やスピード）に注意して聞こう！
ポイント③　相手の思いは何かを常に頭におきながら聞こう！
【あなたは記者役です。】
あなたは記者です。相手の話をできるだけ聞いて、その人の思いを聞き取りましょう。相手の思いや、相手の中心になっているものがわかったら、そこをさらに聞いてください。その後に、あなたが疑問をもって、たくさん思いを引き出そう！
A・B・C・D
A・B・C・D
A・B・C・D

▲資料1

▼なりきりインタビュー（資料1）

「故郷」を主体的に読んでもらうために、登場人物になりきってインタビューを受ける。登場人物役は、記者役の質問に答えるときに、その発言の根拠を明らかにすることが条件である。そのために生徒は、自分自身に「なぜ、そう言えるのか」と問いかけながら、根拠を探して読んでいた。記者役の生徒は、限られた時間の中で、登場人物役の生徒に質問をし続ける。その後、役割分担を交代する。最後に、友達との話し合いをすることで、さらに自分の読みを深めることができる。

資料2◀わたしの最後のメッセージ


時の流れて使い思う二十年でこれほどまでに変わるとは。
美しいものたちが変り果ててしまうなんて。
二十年振りに故郷へ帰ると空模様は怪しく、降り空めて
あがしい村になっていたんだ。自分の心境が変わっただけだと
自分に言い聞かせ強がってみたものの、本当は悲しくてたまら
なかった。昔の故郷は本当に美しかった。紺碧の空が広がり
金色の丸い月がかかっていた。そして、何よりも、兄弟のような
仲の良い閏土とたった十年の事でした鳥の捕り方、貝殻拾
いに誘ってくれた事、跳ね魚を捕えるのがすごく上手いわたい
のは猹の話閏土に猹を捕えるのがすごく上手いわたい
で私の見た事のない世界を見せてもらったような、そんな
気がした。閏土そのものがまるで神秘の宝庫のような
私の遊び仲間からは得られない何か特別な事を感じた
閏土は、つやのいい丸顔でキラキラ光る銀の首輪をはめて
て父親に大事にされている事が一目で分かった。そして、閏
土の心の広さに関心していた。やがて、そんな楽しい時間とも
別れの時がやってきた。「また会う日まで、元気でいてね」
遅かった。かし、二十年振りに再会出来た時にはもう
遅かった。私達の感じさが現実の辛さで、彼の心もすっ
ポロにし疲れてしまったのだ。私は辛かった。すごくすごく
もう笑い合えたあの日には戻れないのだろうと、どんなに
悲しくても辛くても、どうしようもないのだろうと、どんなに
一体どうして、世の中はこんなに変わってしまったのか。
今は絶望にはまって現実を受け止めるだけだ。
何よりも苦しい事だ。人の心は、そう簡単に変えられる
ものじゃないから。
でも、いつまでも絶望なんかしてられない。
同じように古くされない強い意志と優しさを持って
今の私に出来る事は、こんな風に皆に呼びかける事だ
しいさな力にすぎないけれど、私は希望を捨てない。
そして、いつの日か、この世界が…

▼なりきって書こう（資料2）

いくつかのテーマで「なりきりインタビュー」をし、その後の話し合いを経て、生徒はさまざまな登場人物の「生きる姿」を読み取ることができる。そして、さらに「わたし」になりきって「最後に一つだけお願いがあります。」という言葉に続けて、「故郷」の続きを書く。その際、作品の終わりのほうにある「希望をいえば、彼らは新しい生活をもたなくてはならない。わたしたちの経験しなかった新しい生活を。」という文章だけに着目するのではなく、自分なりの読み取りを大切にして続きを書くことにする。そのことで、さらに作品の世界に入り込んでいく。

▼まとめ（資料3）

まとめとして、「自分は何を大切にして生きるのか」を四〇〇字以内で書く。生徒たちは、進路を目前にして、今後の自分を見つめている最中である。中学校一年生からの文学教材や、生活を振り返りながら、ゆったりと考える時間をとった。ある生徒は、一点を見つめながらじっと考え、ある生徒はもう一度、作品を読みながら考えていた。数名の生徒の作文の中には、「私は『どう生きるのか』ということについて考えたことはありませんでした。」と書かれていた。また、生徒が大切にしていくものとして、「命」「友情」「家族」「友だち」「挑戦する心」「あきらめない気持ち」などが挙げられ、それぞれが力強い言葉で表現されていた。

自分は何を大切にして生きるのか

私は、生きていくうえでのプライドを持っています。まず一つ目の私のプライドは、どんなにつらい事があっても人前で泣かずに強気でいる事、二つ目、人にやさしくする事、何においても、冷静に自分だけでなく他人の事も考えてあげる事です。

何故そうしようと思ったかと言うと、私は、小学校の時に『いじめ』られていたからです。いじめられている私が泣いたら、相手は楽しんでくると思ったから、どんなにつらい事があっても泣かないと決めました。

二つ目の理由は、人に嫌われるのがものすごくいやだったからです。

私は、まだ、このプライドを一回もやぶっていません。

これからも私は、自分のプライドを死ぬまでもって生きていきたいと思います。

▲資料3

3 終わりに

このように、登場人物の生き様を通して、自分自身の生き方を考えていくというような作品とのかかわり方が、一生涯、主体的な読書をする基盤になると考えている。さらに、自分の考えをもって、善悪を見極め、自分の考えを表現できる自立した人間を育成することを目指していきたい。そのためにも、教師自身がまず多くの良書を読み、今の生徒にとっていちばん必要な教材を開発できるように成長していきたい。